

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593369

研究課題名(和文) 離島で自立した援助活動が行える助産師養成のための教育プログラムの開発

研究課題名(英文) The development of program to train up midwives that can independently act on the remote islands

研究代表者

井上 尚美 (Inoue, Naomi)

鹿児島大学・医学部・講師

研究者番号：70264463

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、離島の厳しい周産期医療の下で生活している母親へ安心して出産・子育てできる環境を提供することを目指しています。今回は、離島における自立した援助が行える助産師を養成するための教育プログラムを開発することを目的としました。調査の結果、離島の助産師に求められている能力は、妊娠経過を支援する能力、お産時の異常発生の予測・予防と対処能力、母乳育児の支援能力、地域との連携能力でした。また、これらの能力と新生児ケア能力については高いレベルが求められていることが分かりました。そこで、離島で自立した活動を行う助産師を養成する為には前述の実践能力を高める教育プログラムが必要であることが分かりました。

研究成果の概要(英文)：The long-term aim of this study is to provide pregnant women, living in the remote islands where the obstetrical and neonatal services are extremely poor, with a system that guarantees pregnant women to be able to give a birth and to rear children without any anxiety. The objective of the present study was to develop a program for enabling midwives to take care of pregnant women and newborns on their own, even if there is no doctor there. We investigated the ability that is needed for midwives working in such remote islands. The capabilities found to be needed were the ability of supporting women in their pregnancy, predicting, managing and preventing abnormal labor courses, supporting breast-feeding, and collaborating with community. And those capabilities required for midwives were at high level. Therefore, a program should be developed that midwives in remote islands can improve those capabilities shown above.

研究分野：助産学

キーワード：助産学 助産師 教育プログラム 離島

## 1. 研究開始当初の背景

近年の産科施設の閉鎖に伴い、妊産婦健康診査や出産のために遠方施設へ出むかなければならない妊産婦が増え、“お産難民”という言葉さえ使われ始めている。しかし、離島の周産期事情はさらに厳しい状況を迎えている。研究者が助産師教育に携わっている A 県は 28 の有人離島を有しているが、産科施設の閉鎖に伴い出産のできる医療施設があるのは 4 島のみである。研究者らが離島 A 島の母親を対象にグループインタビューを行った結果、妊産婦健康診査の為に島外の産科施設へ時間と費用をかけて通院し、さらに出産時には、分娩予定日の 1 ヶ月前から産科施設のある島へ渡り、家族と離れた生活をしなければならない現状があることが分かった。また、生活している島内での妊産婦健康診査や分娩ができることを強く望んでおり、その状況が整えば、さらに子どもが欲しいなど出産数増加の可能性も示唆していた。出産環境だけでなく島での急変時の対応は、島外の第 3 次医療施設への搬送という形を取らざるを得ない。搬送依頼から実際の搬送開始までには 2~3 時間を要し、その後 1~7 時間かけて搬送となる。島に居住している妊産婦も、他の地域の妊産婦と同じように安心・安全に、そして家族の側で出産・子育てが保障されるべきであり、その為の取組が必要である。

そこで、開業権を持ち、正常経過を辿る妊産婦に独自に関わることでできる助産師が大きな役割を担うことができるのではないかと考えた。それらを担うことができる人材の育成が必要ではないかと考えた。離島における助産師に関する研究は、山本らが島外出産をする女性へのケアを助産師がどのように認識し、実践しているのかについて行われた 1 件を認めら

れるのみであり、離島で活動する助産師に求められる役割や資質に関する研究はない。また、離島で活動する助産師に求められる役割に応えられる助産師を養成する為の教育プログラムに関する研究も見当たらなかった。そのため助産師の離島における役割と必要とされる助産師の資質について明らかにし、島内で安心・安全に妊娠・分娩・子育てができる環境の提供が行える助産師を養成するための教育プログラムの作成を行いたいと考え本研究への取り組みを開始した。

## 2. 研究の目的

本研究は、離島における正常経過を辿る妊産婦に対して自立した援助が行える助産師を養成するための教育プログラムを開発することであるが、最終的な教育プログラムの開発には長期間を要する研究となる。そこで、本研究費助成期間においては、以下の 3 つの達成を目指した。

- (1) 離島における助産師の現状と助産師に求めるニーズを明らかにする。
- (2) 離島で活動する助産師に求められる能力を明らかにする。
- (3) 離島で自立して活動できる助産師を養成する為の教育プログラムを作成する。

## 3. 研究の方法

### (1) 目的 (1) (2) の研究方法

#### 研究デザイン

本研究は、帰納的な質的記述研究、量的記述研究である。

#### 対象者

A 県の離島 6 島 11 市町村の研究に同意が得られた母親 56 名、保健師 35 名、助産師 16 名、医師 3 名。

## データ収集方法

(母親)

研究者が実施した過去の研究結果を基に作成した以下の内容についてグループインタビューを行う。

- 1) 島内で安心して出産するために必要なものについて
- 2) 離島における助産師が自立して援助活動を行うことについて
- 3) 離島で援助活動を行う助産師に求めるものについて

グループ人数は1グループ7名程度とし、7カ所で開催した。時間は60分程度で行った。インタビュー内容は、研究協力者の同意を得てICレコーダーに録音し、その後録音を基に逐語録を作成しデータ化を行った。

(保健師・助産師・医師)

研究者が、厚生労働省が提示している「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」「今後より強化されるべき助産師の役割と機能」、医学教育モデル・コア・カリキュラム教育内容ガイドラインに示されている「医師として求められる基本的資質」を参考に作成したアンケート用紙を事前に手渡しあるいは郵送にて届け、離島で援助活動を行う助産師に特に必要と思われる項目を選択肢より選び、助産師に求めるレベルを記入してもらった。アンケート用紙の内容項目は以下のとおりである。

- 1) 助産における倫理的課題に対応する能力について
- 2) マタニティケア能力について
- 3) 性と生殖のケア能力(ライフステージ各期の性と生殖のケア能力)について
- 4) 専門的自立能力について
- 5) その他必要と思われる能力について

インタビュー時に、事前に記載して頂いたアンケート用紙を受け取り、記載内容を基に以下の内容について半構成的面接法を用いてインタビューを行う。時間は60分程度とした。

- 1) 離島で援助活動を行う助産師に求められる能力について
- 2) 離島での助産師活動内容の現状について
- 3) 離島の周産期医療での連携について
- 4) 離島で助産師が自立して援助活動を行うことについて

## 分析方法

インタビュー録音は、研究者が逐語録に起こし、質的帰納的方法で分析を行った。質問項目に沿ってデータを分け、質問に関する文脈を取り出しコード化する。さらにコードを対象者毎に分析し、サブカテゴリー化を行う。その後、全対象者のサブカテゴリーの類似性を検討し、カテゴリーの抽出を行った。データ分析過程においては質的研究の専門家からスーパーバイズを受け、信頼性の確保に努めた。また、抽出したカテゴリーが妥当かどうかを確認するために一部の対象者にカテゴリーを提示し、適切であるか確認を行い妥当性の確保に努めた。

アンケートは統計処理をし、分析を行った。

## データ収集期間

平成25年3月13日～11月13日

(2)目的(3)の研究方法

## 研究デザイン

本研究は、横断的質問紙調査である。

## 対象者

B 助産師養成機関を卒業した助産師508名を対象に実施し、回答のあった178名(回収率34.5%)を対象に分析を行った。

## データ収集方法

本研究の先行調査結果を基に研究者が作成

したアンケートを用い、郵送質問紙調査にてデータ収集を行った。

#### 【アンケート内容】

- 1)対象の背景に関する項目
- 2)妊娠期の支援に関する項目
- 3)分娩期の支援に関する項目
- 4)相談・母乳育児支援に関する項目
- 5)ネットワークシステムに関する項目
- 6)性と生殖に関する項目
- 7)基礎教育で習得すべきレベルに関する項目
- 8)卒後教育について

#### データ分析

統計解析 SPSS を使用し、<sup>2</sup>検定、順次相関係数を用いて行った。

#### データ収集期間

平成 26 年 10 月 30 日～12 月 10 日

## 4. 研究成果

### (1) 離島で活動する助産師に求められる能力

#### 母親が助産師に求める能力

母親たちが助産師に求める能力は「母乳育児の相談・ケア」「子育ての相談」が最も多かった。しかし、助産師という職種に対する認識は低く、母親達への助産師としての役割発揮ができていない現状がうかがえた。

#### 保健師が助産師に求める能力

インタビューでは、保健師が離島で活動する助産師に求める能力として「安心したお産へ導く力」「リスク診断と緊急対応能力」「産科医と同等の診断能力」「母乳育児の相談が受けられるレベル」「臨床経験を活かした継続性のある性教育」「島の女性の心理的支援」「島で連携できる能力」「住民のニーズに対応できる能力」「対象に合わせられる柔軟性」「自己学習能力」の 10 の能力であることがわかった。

アンケートでは、離島で活動する助産師に必要な能力として 8 割以上の保健師が「現在の妊娠経過から分娩・産褥を予測し支援する」「分娩進行に伴う異常発生を予測し、予防的に行動する」「異常発生時の観察と判断をもとに行動する」「母乳育児に関する適切な授乳技術を提供し、乳房ケアを行う」「保健・医療・福祉関係者と連携する」「災害時の母子への支援を行う」を選択した。求める能力レベルを厚生労働省が提示している「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」レベルと比較してみると「出生前診断を考える妊婦の意思決定過程を支援する」「産婦の分娩想起と出産体験理解を支援する」「分娩期の異常発生時の対応」「性と生殖のケア能力」で高いレベルを提示していた。

#### 医師が助産師に求める能力

インタビューでは、医師が離島で活動する助産師に求める能力として「緊急時の対応と予測ができる」「様々な領域の医師との連携ができる」「助産師としての仕事の多様性に対応できる」「継続支援ができる」「行政とタイアップできる」「こころのケアができる」の 6 つの能力であることがわかった。アンケートでは、助産師に必要な能力は全ての項目を選択していた。求めるレベルは、厚生労働省が提示している「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」レベルとの比較では、「妊娠期の経過診断」「分娩期の異常発生予防」では低いレベルを示したが、「骨盤位分娩や急速遂娩に関する能力」「性と生殖のケア能力は」高いレベルを提示していた。

#### 離島で働く助産師の現状と求める能力

離島で働いている助産師へのインタビューでは、助産師としての仕事にやりがいを感じ、地域とのつながりを大切に活動していた。し

かし、その一方で、急変時の対応の難しさや専門職としての生涯学習の機会が持てない現状について語られた。また、離島の産科医はローテーションで来られる医師が多く、医師の診療能力によっては自分達が専門職の責務として妊産婦へ助言しなければならない時もあると離島医療の厳しさを語っていた。

離島で働いている助産師が、離島で必要とする能力は、「正常経過の妊産婦を支援できる能力」「異常の早期発見・早期対応ができる」「新生児の支援ができる能力」「医師と連携できる」「母乳相談とケアができる」「心のケアができる」「地域との連携ができる」「地域とつながる人間力」の7つの能力であることが分かった。アンケートでも7割以上の助産師が「妊娠経過を診断する」「分娩進行に伴う異常発生を予測し、予防的に行動する」「新生児を蘇生させる」「異常状態と他施設搬送の必要性を判断する」「保健・医療・福祉関係者と連携する」能力を選んでいった。求めるレベルは、厚生労働省が提示している「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」レベルとの比較では、「分娩期の異常に関する能力」「母乳育児に関する能力」「新生児に関する能力」「助産業務管理能力」「性と生殖ケア能力」で高いレベルを求めている。

## (2) 離島で自立して活動できる助産師を養成する為の教育プログラム

離島で働くことに積極的になるために助産師が必要と思う能力

離島の産科診療所で働く自信がある助産師は2.9%であった。離島での助産師活動に対する自信は、分娩期ケアが1.8%と最も低く、母乳相談・ケアを行う自信は14.6%と最も高かった。また、離島で働く自信がある者は、妊

娠期と分娩期の支援への自信と強い正の相関を示しており、離島で活動するためには、妊娠期、分娩期の支援能力への自信が必要であることが分かった。分娩期ケアの自信と離島で分娩期の支援をするために自分に不足している能力との関係では、自信と「新生児を蘇生させる能力」が最も強い負の相関を示しており、新生児蘇生に対する能力は必須であることが分かった。その他「正常範囲を超える出血へ処置を行う能力」「異常状態と他施設搬送の必要性を判断する能力」も強い負の相関を示しており、急変時の対応と判断能力が必要であることが分かった。

経験年数と助産ケアに対する自信では、経験年数と妊娠期の支援への自信で最も強い正の相関を示し、次いで母乳相談・ケアが強い正の相関を示していた。助産師としての経験を積み重ねる中で妊娠期の支援や母乳育児支援の能力は高まっていることが分かった。経験年数と離島で分娩期の支援をするために自分に不足している能力との関係では、「分娩の進行状態を診断する能力」が最も強い負の相関を示しており、次いで分娩進行に伴う異常発生を予測し、予防的に行動する能力」が強い負の相関を示していた。経験を重ねる中で分娩進行状態の診断やリスク診断・予防行動は高まることが分かった。

臨床経験の施設と自信については、離島で働く自信があるあるいは、妊娠期ケアに自信があると答えた者は「第2次産科施設か第3次産科施設」を経験している者が多かった( $P<0.001$ )。正常だけではなく、異常も経験できる施設で経験を積むことは離島で活動する自信へつながることが分かった。

離島で活動できる助産師を養成するためのプログラムについて

今回の調査から離島の助産師に求められている能力は、「現在の妊娠経過から分娩・産褥を予測し支援する」「分娩進行に伴う異常発生を予測し、予防的に行動する」「異常発生時の観察と判断をもとに行動する」「母乳育児に関する適切な授乳技術を提供し、乳房ケアを行う」「保健・医療・福祉関係者と連携する」であり、「分娩期の異常に関する能力」「母乳育児に関する能力」「新生児に関する能力」「助産業務管理能力」「性と生殖ケア能力」については、助産師養成機関卒業時の到達レベルよりも高いレベルを求められている。さらに、離島で活動する助産師を養成する為に基礎教育で習得すべきレベルについての質問では、「周産期の異常に関するケア能力」「地域母子保健における能力」は【少しの助言で自立して実施できる】を選択した助産師が多かったが、他の項目はすべて【対象の状況に応じて自立して実施できる】を選択した助産師が多かった。

このことから、助産師養成機関の卒業時到達レベルを実践能力へ高めること、卒業後に助産師として「分娩期の異常に関する能力」「母乳育児に関する能力」「新生児に関する能力」「助産業務管理能力」「性と生殖ケア能力」をどのように身に付けていくか、助産師のキャリアパスと連動した教育プログラムの構築が必要であることが分かった。

実践能力を高める教育方法としては、今までの知識・技術重視の教育ではなく、知識と技術をどのように統合し、目の前の対象に合わせてケアとして提供できるかということが重要である。しかし、1~2年という限りのある期間の中でこれらの能力を高める為には、教育アプローチのポイントと方法を精査する必要がある。そこで、現在、助産師の臨床推

論に着目し、助産師の臨床判断プロセスを明らかにする研究を計画中である。

#### <引用文献>

(山本由香：島外出産をする女性へ助産師が行うケアの認識と実践、日本助産学会誌、24(2)、294-306)

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕2件

井上尚美、他2名、Midwives' confidence to provide care in harsh medical environments and areas in which they lack competence : training midwives who can work on remote island. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015 , 2015年7月21日、神奈川県・パシフィコ横浜

井上尚美、他2名、離島で活動する助産師が保健師から求められる能力、第54回日本母性衛生学会、2013年10月4日、さいたま市・大宮ソニックシティ

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

井上 尚美 (INOUE, Naomi)

鹿児島大学・医学部・講師

研究者番号：70264463